

令和5年度群馬県立高崎東高等学校1学期始業式式辞

皆さん、こんにちは。令和5年度の1学期が始まりました。この年度から大きく変わるものがあります。それは新型コロナウイルス対応です。近々、新型コロナウイルスは季節性インフルエンザウイルスと同様の第5類に位置付けられ、今までと大きく対応が異なる面が出てくることとなります。例えばマスクの着用、出席停止となる条件などです。このあと先生方からの説明をよく聞いて対応してください。

ところで4月という時期は何かと不安を感じるものです。上級生となった責任感から来る不安、新しいクラスに馴染めるかどうかの不安、自分の進路選択はこれで大丈夫なのか、等々。これらの不安は人によって大小はありますが、誰でも抱く不安です。みなさんの前後左右の人も、そして我々教師も持っている不安です。その不安を抱えているみなさんは人として当たり前であり、不安を抱くことは悪いことでも間違っていることでもありません。人間は誰も不安を抱えながら生きているのです。「一人ではない」と考えれば、少しは気が楽になりませんか。「なあんだ、君もか」、「私だけじゃないだね」と思うことができれば、もうそれで人として立派に成長していることになるのです。ドイツの教育学者ナトルプは、「人は社会の中でのみ成長できる」と主張しました。社会は人が複数いれば成立します。一番小さな人間社会は「家族社会」です。家族社会は2人以上いれば成立します。人は家族社会の中で、時には兄弟喧嘩・親子喧嘩などで対立し、でも知らないうちに和解し、時には一家団欒の場や家族旅行や記念日などで絆を深めたりして、一緒に暮らしながら他者との接し方、自分自身の在り方などを模索しながら成長していくのです。学校の中にも友達同士、清掃班、クラス、学年、各部活動や委員会などの社会が存在しています。人は社会を作って生きていくので、何かの社会に所属していると安心感を覚えます。そして抱えている不安感は、他者と共有することにより一体感や共感を覚え安心できます。そのような社会を大事にしてください。フィギュアスケーターの羽生結弦選手は、スケートを始めた9歳の自分が心の中にいて、今の羽生選手のスケートを評価しているそうです。少し離れたところから自分を見つめてみる、これをメタ認知といいます。みなさんも「高東」という社会に入ってきた「15歳の自分」が心の中にいると思うので、ぜひ15歳の自分に今の自分を見つめさせてみてください。同じ人間ですが15歳と今の自分と2人以上の人間が存在していて、そこに社会があり、社会に所属している安心感が得られます。もしかしたら15歳の自分は「お前、何やっているんだよ」等、今の自分を否定する言葉を投げかけてくるかもしれません。でもこれは否定ではなく励ましの言葉です。そして15歳の自分より成長している所を見出し、15歳の自分に認めてもらってください。これが自己肯定感です。自分自身を大事にいきましょう。

今日の午後、入学式が行われます。明日は対面式・生徒会オリエンテーションが予定されています。会場設営などの協力していただいた生徒の皆さんに感謝します。ありがとうございました。そして2・3年生の皆さんには、高東の先輩として1年生への指導や援助をお願いします。今日の午後、「高東」という社会のメンバーとなる1年生が参考にしたと思うようないい「轍」を示してください。

社会に所属することでの安心感、そして自分を認める自己肯定感、4月という季節においてみなさんに必要なものです。私も「チーム高東」の一員であるという自覚、そして自己肯定感を大事にしながら、みなさんと一緒に今年度を歩んでいきたいと思えます。

令和5年4月10日

群馬県立高崎東高等学校 校長 関口 俊邦